

# テアゲルの語用論的意味について

楊 世沢(京都大学大学院生)

## 1. はじめに

テアゲルは恩着せがましさが生じやすいため、使われにくい表現とされる一方(日高 2007; 新屋ほか 1999), 親しさが伝わり、親しい人に使えるとも指摘されている(橋元 2001; 山本 2003). なぜ1つの表現に2つ以上の語用論的意味を持っているのか. 本稿はこの2つの語用論的意味をいかに統一的に説明できるかを試みる. さらにこの説明が敬語体テサシアゲルまで適用できるかを考察する. なお, 本稿は「受益者=聞き手」のみを対象とし, 「受益者=第三者」を対象から外す.

以下の2節では先行研究を概観し, 3節でテアゲルの語用論的意味を統一的に説明する. 続く4節ではテサシアゲルの語用論的意味を考察し, 5節では全体をまとめ, 今後の課題を示す.

## 2. 先行研究

これまでの研究では, テアゲルの使用に関して盛んに議論されている. 失礼さが生じる要因について, 新屋ほか(1999: 47)は「供与されるほうにとっては, 利益を受けると, その分, 負担に感じるために, むしろ恩着せがましい, 失礼な表現になることもある」と解釈している. それを踏まえ, 井上(2018: 78)は「負担」説を「[相手が自分に負担をかけることを許す]ことを示すことが, 自分が相手より上の立場にあることを暗示する」と再解釈している. 日高(2007: 13)は上下関係の観点から「授受行為は, 与え手の厚意によって受け手が利益を得る行為であるため, 与え手と受け手の間に立場的な上下関係を生じやすい. 「あげる」や「さしあげる」を用いて, 恩恵の与え手であることを言語的に表明することは, たとえ文法的に正しくても, 場面的に不適切になる」と指摘している<sup>1</sup>. 山橋(2002)はテアゲルの意味を「誰かに対する愛情, 同情, 思いやり, いとおしさなどの感情から, ある行為を誰かに与えることを表す」(p. 75)と説明し, 感情表出の観点から「先生に対して「ご苦労様」と学生が言うことも失礼になりうる日本の文化では, 目上の人に対して愛情, 同情, 思いやり, いたわりなどの感情を具体的に表現することは普通受け入れられない」(p. 76-77)と述べている.

一方, 親しさが生じる原因について, 橋元(2001: 51)は「自分が施す恩恵を言明し, 相手に義理感情を派生させることにより, 絆の深さが確認され, 関係の親密さがアピールできる」と説明している<sup>2</sup>. 山本(2003: 152)は「話し手が聞き手に対して, 聞き手の気持ちがわかるほど近い関係であると見ていることの表れ」と指摘している.

上記のような失礼さは, テサシアゲルに置き換えても解消できないとしばしば指摘されており(庵ほか 2001; 日高 2007), 伊藤(2018: 57)は領域侵入の観点から「上位者である聞き手に対する授受あるいは与益表現は, 上位者補語の内面(あるいは権限)領域に対する一方的な存在規定, あるいは望ましくない侵入の表現となるため, そのままでは使用できない」と述べている. ただし, テサシアゲルは完全に使われていないわけではない. 椎名・滝浦(2021: 237)は「“上から目線”的な意味合いと矛盾しない庇護的動詞(例:「教える」「お世話する」など)と共起する用法では, 非上向き発話の庇護的用法として, 「てさしあげる」独特の用法として棲み分け的に残存している」と指摘している.

山本(2003)はテヤルとテサシアゲルを含むテアゲル系の語用論的意味を統一的に説明しており, 具体的に, 「a: A-Bが何らかの意味で「上下関係」にあると話し手が認識している場合; b: AがBより上位にあることを「恩着せがましくなく」述べられるほど「親しい関係」にあると話し手が認識している場合」(p. 148), テアゲルが用いられ, 親切さなどが伝わり, ただし, 話し手のこの人間関係に関する認識が聞き手と一致していない場合, 恩着せがましさが生じると述べている.

これらの先行研究について以下の問題点があげられる. まず, 先行研究はテアゲルの失礼さをさまざまな視点から考察しているが, あらかじめテアゲルにマイナスの意味を設定したら, 適切な使用例がうまく説明できなくなる問題がある. 例えば, 失礼さを招く上下関係や心理的負担などの意味は目上の人に示してはいけない一方, 友達同士に示してもいいということになってしまい, 説明の合理性に欠けている. よって, 本稿は山橋(2002)のように, マイナスの意味を基本的意味とし

<sup>1</sup> 椎名・滝浦(2021)はこの「上下関係」説を支持している.

<sup>2</sup> 倉持(2005: 12)はそれを踏まえ, 「自分が施す恩恵を言明することで, 行為の受け手に向けられた話者の心情を表し, 受け手の心情にも働きかける機能を持つ」と指摘している.

ない方法を支持する。ただし、山橋（2002）の説明はテサシアゲルの使用例をうまく説明できない。つまり、基本的には目上の人に同情などを示してはいけませんが、例外もあるということになり、説明の統一性に欠けている。本稿は山橋（2002）の言う愛情などの感情が生じる前段階を探ることで、テアゲル及びテサシアゲルを統一的に説明することを試みる。

統一的に説明を行う山本（2003）は、聞き手の視点から親しさと恩着せがましさの意味分けを考察している<sup>3</sup>。本稿はこの方法を援用する。ただし、人間関係の捉え方でテアゲルの語用論的意味を統一的に説明できても、テサシアゲルまで適用するのが難しいと考えられる（4節で詳しく論じる）。よって、本稿はテアゲル自身の意味を出発点とする。

田村（2021）はテシマウの感情表出を分析する際に、手続きの意味をまず規定し、そのうえで関連性理論を用いてテシマウによる感情表出を解釈している。本稿はこの方法を利用する。以下では、テアゲルの感情的な意味をもとに、手続きの意味を規定することで、関連性理論を援用しながらテアゲルの語用論的意味を再考する。

### 3. テアゲルの語用論的意味の統一的説明

ここでまず、テアゲルの手続きの意味を定義しよう。手続きの意味（procedural meaning）について、Blakemore（1987）は次のように述べている。

- (1) (T)here is the essentially procedural theory that deals with the way in which elements of linguistic structure map directly onto computations themselves – that is, onto mental processes.

(Blakemore 1987: 144)

松尾（2013）はテクレルの手続きの意味を考察する際に、否定文テストを使い、テクレルは概念の否定と関わらず、手続きの意味を持つと主張している。それと同系統のテアゲルにも手続きの意味があると考えられる。ただし、松尾（2013）は「働く」という動詞を例としているが、澤田（2014）によれば、作成動詞と共起する場合、テアゲルが二格を支配する。つまり、テアゲルは概念的意味と関わる場合があり、文法テストで手続きの意味の存在を検証するのが難しいのである。ここでテストではなく、テアゲルの意味から手続きの意味の存在を検証する。授受表現は「もともなる動詞がだれのために行われるかを表す文法的な表現」であり（豊田 1974: 78）、また澤田（2014）によれば、テアゲル構文は動作主が恩恵を施す意図を持つため、テアゲルには「相手のために何かをする」という意味が含まれていると確認できる<sup>4</sup>。それにより、テアゲルには「相手のために」という意図を理解せよ」という手続きの意味があると考えられる。そうすると、聞き手がこの「ために」という意図をどのように受け入れるかによって、テアゲルの語用論的意味が変わると本稿は主張したい。すなわち、テアゲルの手続きの意味が消極的に理解されるとき、恩着せがましさといったマイナスの意味を感じさせ、一方、「相手のことを考えている」と積極的に理解されれば、心掛けや親切さといったプラスの意味を感じさせることも可能だということである。「ために」が明示されることで、恩着せがましさが生じるという指摘（王 2008；倉持 2005；山本 2003）がまさに前者に当てはまり、山橋（2002）のいう愛情や同情などの感情は後者に当てはまる。つまり「ために」を積極的あるいは消極的に捉えた結果である。このように、テアゲルの2つの語用論的意味は「ために」の解釈に集約される。次の問題は、いかなる場合にテアゲルが積極的に捉えられ、聞き手がこの場合にこの手続きの意味を積極的に捉えると話し手が予測できるのなぜなのかという2点である。以下、順を追って説明する。

先行研究からも分かるように、親しい間柄にはテアゲルが積極的に捉えられやすい。それは心理学的研究にも検証できる。植村（1999）は大学生・専門学校生に向社会的行為の生起を質問紙調査したところ<sup>5</sup>、「相手に対する好意感情や親密さが高い方が向社会的行動の意図を形成しやす」（p. 182）く、「人は、「助けよう」という意図を持っていても、行為や親密さが高くない相手に対しては援助行動を実現しにくい」（p. 182）ということを明らかにしている。つまり、親しい間柄では「助ける」ことをより行いやすいという心理的な習慣があるということであり、換言すれば、親しい間柄では援助される人がテアゲルを「積極的に」認識しやすいといえる。また、倉持（2005）は聞き手に依頼されるかどうかによって、テアゲルのフェイス侵害の度合いが変わると指摘している。つまり、聞き手が欲しい事象であればテアゲルを積極的に捉えやすいといえる。

ただし、手続きの意味を理解する際に、2通りの解釈が可能であるので、友人やほしい事象であれば、発話を理解するたびに、話し手の意図を常に積極的に捉えると説明するために、Sperber & Wilson（1995）による関連性理論（Relevance Theory）を援用しなければならない。関連性に関して、Sperber & Wilson（1995）は次のように指摘している。

<sup>3</sup> 「聞き手の視点」は倉持（2002；2005）が（テ）アゲルのボライトネス上の問題を考察する際にも使われている。

<sup>4</sup> 「タメニ」という意味に関して、王（2008）、倉持（2005）、山本（2003）も言及している。

<sup>5</sup> 植村（1999: 173）は向社会的行為を「援助行動や分与行動、他人を慰める行動といった他者に利益となるようなことを意図してなされる自発的な行動」と定義している。

- (2) (A)n assumption is relevant in a context to the extent that the effort required to process it in this context is small. (Sperber & Wilson 1995: 125)
- (3) The less accessible a context, the greater the effort involved in accessing it, and conversely. (Sperber & Wilson 1995: 142)

これらを踏まえて解釈すると、親しい間柄やほしい事象であれば、発話を理解する際に、テアゲルの手続きの意味を積極的に捉えた方が労力を省き、プラスの意味が生じやすい。そうであれば、疎遠な人やほしくない事象であれば、テアゲルの手続きの意味を積極的に捉えるのは労力を省くとは言えず、プラスの意味よりマイナスの意味が生じやすい。例えば、

- (4) (AとBは親友) A: 駅まで送ってくれる? B: いいよ。送ってあげるよ。(作例)
- (5) (軽い荷物しか持たない知人に) 荷物、持ってあげましょう。(作例)
- (6) (友達Aにやってほしくないこと) A: これ、あとで私がやってあげるね。(作例)

(4)は依頼に応える文であり、しかも親しい関係が想定できるため、プラスの意味が生じやすい。(5)は明らかに聞き手にとっていない手助けであり、しかも親しい関係ではないため、マイナスの意味が生じやすい。また、人間関係と事象が導く解釈が異なっている場合、この時テアゲルがどのように捉えられるかは、どの要素がより労力を省くか、つまり聞き手にとってアクセスしやすいかによって決められる。例えば、(6)はもし聞き手が話し手に片思いをしているなど、つまり人間関係の要因にアクセスしやすいなら、親切に感じられる一方、事象の要因にアクセスしやすいなら、恩着せがましく感じられる。家族や友達同士でよくテアゲルを使うのは、それらの関係では人間関係の要因によりアクセスしやすいからであろう。

以上、テアゲルの手続きの意味を規定したうえで、語用論的意味を「相手のために」という点に統一して解釈した。以下では、この「相手のために」がテサシアゲルまで適用できるかを考察してみる。

#### 4. テサシアゲルの語用論的意味

2節で人間関係の捉え方でテサシアゲルの語用論的意味を分析するのが難しいと言及したが、ここではまずこのことについて説明する。まず、テサシアゲルは敬語であり、距離を置くのが敬語の機能である(滝浦 2020)。そのため、テアゲルのように、「親密さを示す」をプラスの意味として表すのは論理的に矛盾している。また、滝浦(2022)によれば与益は与える側がより上位に見えやすいため、恩恵を与えることを丁寧に表すことが難しいという。

ただし、テサシアゲルが使われていることも椎名・滝浦(2021)から確認でき、テサシアゲルの語用論的意味を再考することが重要だと思われる。ここで、テアゲルの解釈を適用してみる。テサシアゲルはテアゲルの謙譲語であり、テアゲルにおける「相手のために」という意味、またその手続きの意味が保たれると想定しやすい。それが消極的に捉えられれば、テアゲルと同じく恩着せがましきといった意味になるが、積極的に捉えられ、つまり「相手のために」を謹んで表現すると想定すれば、それはおそらく「かしづく」、「相手に仕える」という意味になるだろう。例えば、

- (7) 臣：王様のためなら、何でもして差し上げます。(作例)

(7)は臣が王に対して発した言葉である。「王のために」全身全力で尽くすという意味であり、この場合、テサシアゲルは特に違和感なく理解できる。すなわち、王に仕えるというニュアンスはテサシアゲルのプラスの意味と一致するといえよう。

コーパスにも似たような例が見られる。「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」で「て(で)差し上げます(さしあげます)」をキーワードとして検索したところ、次のような例が見つかった。

- (8) 太監、宮女たちは慈禧太后の扮装を見て誰もが奇異に感じたが、じろじろ見たりはしなかった。むしろ慈禧太后自身が我が身を見て、照れ隠し気味に無理に笑った。「どう? 田舎のおばあさんに見える?」「そう見える方がよらしいのです」と李蓮英が彼女の腕を支えて、「奴才がおぐしを直して差し上げます」李蓮英はもう何年も彼女の髪をさわっていないが、腕前は前のおり熟練したもの。(高陽(著); 鈴木隆康、永沢道雄(訳)『西太后』)
- (9) …そのたゆまぬ努力と人知れぬ心遣いをねぎらうために、私はあなたに贈り物をいたしましょう。望みをひとつ、叶えてさしあげます。さあ、言ってごらんなさい(中略) モルフィニエは困ったように笑いました。「姫…それ

は王女としてのお言葉です。私が贈り物をしたいのは、ルカイヤ様ご自身です。一人の少女としてのあなたの望みをお訊ねしているのですよ」  
(高崎悠 (著) 『黒百合, 白薔薇』)

(8) の「慈禧」と「李蓮英」は主僕関係である。太后である「慈禧」は太監である「李蓮英」より極めて身分の高い者であり、仕えられる身分に相応しいといえる。「李蓮英」の「おぐしを直す」という行為は「慈禧」に仕えるという気持ちで尊敬的に行い、テサシアゲルでこれを言語化するのである。(9) も同じである。「ねぎらう」を用いるので、「モルフィニエ」が「ルカイヤ」より上にあるが、聞き手である「ルカイヤ」は「王女」であり、伝えられる身分に相応しくないわけではない。「モルフィニエ」の「望みを叶える」という行為は王女に仕えると解釈できるので、テサシアゲルが問題なく使われている。もし、テサシアゲルが以上のようなプラスの意味を持つのであれば、日常会話にはあまり使われていないことも説明できる。すなわち、「相手に仕える」ということは、相手の身分に極めて厳しい制限があるので、日常にあまり馴染まないのである。学生が先生に、あるいは部下が上司に何かすることを「仕える」と言うのは現代社会の習慣に合わない。そこで、「相手のために」という手続きの意味は積極的に捉えられるより、マイナスの意味として捉えた方が労力を省くと言え、テサシアゲルは使いにくい表現とされてしまうと思われる。

## 5. まとめ

以上、本稿はテアゲルの意味から、手続きの意味を規定したうえで、テアゲルの2通りの語用論の意味を手続きの意味がいかん認識されるかという視点から統一的に説明した。また、この手続きの意味はテサシアゲルまで適用でき、「相手に仕える」という意味はこの手続きの意味が積極的に捉えられた結果として得られるプラスの意味であることが分かった。本稿はテサシアゲルのプラスの意味を考察したが、必ずしも「相手に仕える」に限られるわけではなく、ほかの意味の考察は今後の課題として残される。

## 参考文献

- Blakemore, D. (1987). *Semantic constraints on relevance*. Oxford: Blackwell.
- 橋元良明 (2001). 授受表現の語用論 言語, 30(5), 46-51.
- 日高水穂 (2007). 授与動詞の対照方言学的研究 ひつじ書房
- 井上優 (2018). 文法とコミュニケーション・スル表現とナル表現, てあげる— 國學院雑誌, 119(11), 70-81.
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001). 中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク
- 伊藤博美 (2018). 近現代の謙譲語における補語の権限領域配慮について 日本語学論集, 14, 64-52.
- 倉持益子 (2002). ポライトネスの視点から見た「あげる」—授受動詞「あげる」「さしあげる」の使い方— 言語と交流, 5, 88-96.
- 倉持益子 (2005). 補助動詞テアゲルの機能—受益者に直接言う場合— 言語と交流, 8, 1-15.
- 松尾貴哲 (2013). 命題態度への意味論的制約—日本語補助動詞「テクレル」の場合 人文研究, 179, 13-53.
- 澤田淳 (2014). 日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比較対照と合わせて— 言語研究, 145, 27-60.
- 椎名美智・滝浦真人 (2021). 薄幸のベネファクティブ「てさしあげる」のストーリー—敬意漸減と敬意のナルシズム— 田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝(編) 動的語用論の構築へ向けて第3巻 開拓社 pp. 204-240.
- 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代 (1999). 日本語教科書の落とし穴 アルク
- Sperber, D., & Wilson, D. (1995). *Relevance: communication and cognition (second edition)*. Oxford: Blackwell.
- 滝浦真人 (2020). 対人語用論 加藤重広・澤田淳(編) はじめての語用論 研究社 pp. 57-76.
- 滝浦真人 (2022). 敬意漸減 椎名美智・滝浦真人(編) 「させていただく」大研究 くろしお出版 pp. 95-115.
- 豊田豊子 (1974). 補助動詞「やる・くれる・もらう」について 日本語学校論集, 1(1), 77-96.
- 田村敏広 (2021). 「てしまう」による話し手の感情はどのように解釈されるのか: 関連性理論の観点から 静言論叢, 4, 33-56.
- 植村里絵 (1999). 向社会的行動の生起過程に関する探索的研究 名古屋大学教育学部紀要. 心理学, 46, 173-185.
- 王燕 (2008). 「～テヤル」の派生的な意味機能について 北陸大学紀要, 32, 193-210.
- 山橋幸子 (2002). 補助動詞「(て)やる/あげる」考 比較文化論叢: 札幌大学文化学部紀要, 9, 71-85.
- 山本裕子 (2003). 「テアゲル」の対人的な機能についての一考察 世界の日本語教育, 13, 143-160.